

# 1 自己評価及び外部評価票

## 【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070201054		
法人名	株式会社 フジミヤ		
事業所名	グループホーム やすら木の家		
所在地	松本市島立2225-1		
自己評価作成日	平成29年9月28日	評価結果市町村受理日	平成30年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2070201054-00&amp;PrefCd=20&amp;Version=">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2070201054-00&amp;PrefCd=20&amp;Version=</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	平成29年10月27日

## 【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

ご利用者さんやご家族とのコミュニケーションを大切にしています。介助や支援が強引にならない様、ご利用者さんの意向を確認し、その方のペースで生活できるように努めています。また、グループホームをご利用者さんの生活の場、“家”として捉え、気楽に安心して、その人らしく暮らせるような環境づくりを目指しています。特に、日々の食事では、その方の能力に応じた食事形態、環境に個別に対応し、美味しく、楽しく食事ができるように工夫しています。

## 【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

木材をふんだんに使い、共用スペースはもとより居室にも畳スペースを設ける等、全体が和風木造家屋でほっとする心地良さと安らぎを感じるホームである。毎月家族に渡している「今月の私」では、サービス計画の実施評価、本人の日々の暮らしや様子について、また、健康に関する報告、「やすら木便り」で事業所の取り組みを知らせるなど、細やかな報告で家族の安心へと繋げている。そして、事業所からの一方向とならないよう通信欄を設け、家族からの声を聴取し、双方向的な関係となるよう心掛けている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( け や き ) ※1ユニットの場合は2ページめは必要ありません。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

ユニット名( あすなる )

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所を取り巻く環境が変化してきたため、理念を新しく定め、現在共有化を進めており、カンファレンスの際など、機会あるごとに読み合わせをしています。	新しい理念を基に行動指針を定め、その共有化及び実践に向けて努力している姿がみられる。	理念の共有化の浸透及び実践について、具体的な場面でどのように行動するのかなど、話し合いを重ねることで職員の自発的で利用者の主体的な活動により活かされると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的には行えていないが、運営推進会議には町会長さんにも参加していただいています。 また、町会の総会やお祭りにも出来る限り参加しています。	町会の行事等に利用者が参加するなど、利用者の生活の幅に広がりを作っている。 また、中学校の職場体験なども受け入れている。さらに、AEDや看取りについて、ご近所への講習参加なども呼び掛けている。 尚、新たな交流や連携について考えているものの、その手立てに苦慮する姿が見られる。	交流や連携を考える際は、ギブ&ギブが基本である。 地域の保育所や小学校の登下校の際の見守り、認知症対応の専門家としてのキャラバンメイト活動など、ホームとしてのできる事探し、地域へ貢献できる計画などを話し合う事も必要と思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	活かしていない面も感じており、今後の課題だと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	ご家族や町会、地域の方の意見を取り入れ、運営に活かしています。	定期的な運営推進会議が開催されており、その活動内容や活性化に不足感を感じている。	運営推進会議において利用者の健康状態の変化や職員の異動など、内部環境の変化を分かり易く報告するなどして、外部の方の意見を聞くなど、参加・提案型の内容に進めることも必要と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターの担当者さんに看取りの研修会を開いていただいたり、話をしています。	行政の協力を得て、職員の資質向上に努めている。	地域の認知症高齢者の現状を把握するなど、情報の提供を求めるとともに、それに合わせたホームの活動も期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	常に心掛け、身体拘束にならないケアに取り組んでいます。	身体拘束にならないように注力しているが、定期的な研修等の機会がない事もあり、日常的な取り組みは行われていない。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の周知・理解については異動等もあり、意識的な研修の機会が求められる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	職員同士で話をしたり、協力して仕事をすすめて虐待がない様になっています。しかし、今年度は研修には参加できていません。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	理解や活用は行っていますが、学ぶ機会は持っていない現状です。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際、納得ができるように説明を行っています。その際、利用者や家族に不安や疑問点を尋ねています。理解・納得を得られているのかは不明です。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、当月のご様子を送付し、コメントを書いていたいただき、返送していただいています。その内容をカンファレンスで共有し、運営に反映させています。	家族等との昼食会後に食事アンケートを取ったり、町会行事への利用者・家族の参加も好評である。また、今月の私という長年の取り組みも利用者の時々の方が分かり易いと継続的に行われている。	地域密着型福祉施設、利用者の「家」としての事業所の課題も明らかとしているが、業務に追われるなど取り組みが遅れていることを意識している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	あまり聞く機会を持っていないが、管理者は朝のミーティングや作事中に意見や提案を聞いています。	業務の合間に職員の意見を聞いているが、それを集約するなど、その後のアクションに物足りなさを感じる。	その課題について全職員が心をつにし、真摯に向き合い取り組み、また、課題によっては運営推進会議メンバーや地域の方々の助言や協力を得ながら進めることで、理念である「笑顔が輝く」事業所に近づくとと思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	従来、職員を評価する体制がほぼなかったが、整備をはじめたところです。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の育成については進めており、本年度は記録の研修会に2名参加しました。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	毎月、管理者は外部の経営コンサルタントと勉強会を開いているものの、同業者と交流する機会は持っていません。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	定期的に本人の思いに耳を傾ける機会を設け、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の後、おぼんやお皿を拭いてもらうなど、関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居前から、ご家族とやすら木の家とはパートナーとして、ご本人を支えていく関係だと伝えており、ご来訪時にはできるだけ顔をあわせ、お話をするように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人からかかってきた電話を取り次いだり、手紙、年賀状を書く支援を行っています。	定期的に電話が来る利用者もいたり、墓参りや通院などの支援が行われている。 毎月家族へ送付する「今月の私」は好評である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂の席順など工夫をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去され、契約が終了しても、病院などにお見舞いに伺い、本人やご家族のお話を聞かれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別に思いを聞いたり、カンファレンスで検討しています。	聞き取り係が利用者本人から聞き取り、それをカンファレンスに活用している。	重度化も進んでいるが、把握した思い・意向とともに、一人ひとりの記憶力・記銘力・計算力などの変化をグラフ化するなどして推移が分かるようにして、将来の本人本意の支援に活かす取り組みなどが期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に聞き取りを行い、その情報を職員全員に周知し、共有しています。 また、聞き取った情報をまとめてファイルにして事務所に保管し、日中、いつでも閲覧できるようにしてあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のミーティング、月1回のカンファレンスにて、その時々々の現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者さんごとに担当者を決め、カンファレンスにてケアプランを見直しています。ご家族には、ご来訪時、お話を聞いたり、ケアプラン、毎月のご様子を送付、意見などを返送していただき、それを反映させています。	カンファレンスにて見直しが行われ、都度、計画を練り直している。 また、通院支援・買い物支援・手続き代行なども含まれている。	本人のできる事探しを進め、役割を与えることで生活意欲も高まり、本人の一日がより充実すると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子などは個別記録に記入し、カンファレンス時、共有するように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問マッサージを導入しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の把握があまり出来ていないため、支援も出来ていない現状です。 また、町内会の敬老会への参加や、地元の御柱祭の見物に参加していますが、あまり関わりは持っていないところです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月1回、主治医の往診があり、その記録をご家族に送っています。 それ以外にも、受診の必要があれば、主治医やご家族と相談し、支援しています。	今までの医療機関やかかりつけ医での受診を支援すると共に、負担軽減等の要望でかかりつけ医、協力医の訪問診療を実施している。また、訪問看護師の来訪で利用者の健康管理や医療面での相談対応について助言を得ており、医療との連携には力を注いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝のミーティング時、利用者さんの状態を確認・把握して適切な受診、看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内のカンファレンスに参加し、状態の把握や情報交換しています。 しかし、関係づくりとなると疑問です。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	全員とは話し合いができていないが、看取りについては、本年度、地域包括センター主催の研修会を行いました。 体調を崩されて、看取りが考えられるようになったら、ご家族と話し合っ訪問看護師や主治医と情報交換して共有していますが、早い段階からはできていないといえます。	入所時に「重度化した場合の対応に関わる指針」をもとに、事業所の方針を家族に説明し、実際、状態変化や急変がみられた際に再度話し合い、意向に沿った支援となるよう取り組んでいる。 講師を招いて「看取りについて」の研修会を地域にも呼び掛け実施しているが、職員の不安や意志統一は課題としている。	事業所が掲げている「家としての看取り」について職員間での理解、意志の統一、今できる事業所としての最大のケアについての共有等、体制づくりと共に職員の理解と前向きな姿勢を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	H28年11月24日に消防署主催の救命講習を行いました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災訓練は行っているが、他については実施しておらず、参加・協力のお願いの書類を地区の回覧板で回しているものの、地域との協力体制が築けていない現状です。 様々な災害に備えて、昼夜を問わず利用者さんが避難できる方法を習得できる必要を感じています。	年2回の防災訓練は日中の火災を想定しての訓練を実施している。 課題であった地域住民の参加、協力を回覧にて呼び掛ける取り組みや、備蓄の用意と毎月の点検などの改善がみられる。 しかし、あらゆる災害対策に関しては十分とは言えず、早急に取り組みたいと考えている。	災害に関しては「平時から準備している以上のことはできない」 昼夜の火災・地震・台風・豪雪等について事業所に応じた具体的なマニュアルの作成→それに基づく職員の共有→各災害の訓練など、全職員が有事の際、慌てず機敏に行動できる体制づくりと職員の意志の向上、併せて運営推進会議メンバーや地域住民の協力は不可欠なので、その取り組みも積極的に進め、利用者の安全の確保により注力することが求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けていますが、職員やその時の状況によって対応に差があると感じています。	入浴や排せつで、同性介助を希望する利用者には対応するなど、プライバシーの配慮に努めている。 職員会議で尊厳やプライバシーの確保について随意話し合っているが、全職員の共有には至っていない現状である。	利用者の尊厳、人格の尊重、プライバシー保護等についてのマニュアルの整備と学習での共有で、全職員の姿勢と意識の徹底は早急に望みたい。また、不適切な声掛けや対応がないよう常に職員同士が注意を払う必要がある。 理念である「優しさと思いやり」は利用者一人ひとりの尊重から始まると考えたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけに努めているものの、職員やその時の状況によって働きかけに差があると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	なるべく一人ひとりのペースを大切にするように努めており、食事の時間をずらすなど、出来るだけ希望にそった支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な利用者さんとは、夕食後、一緒に食事の片付けをしています。	食事内容が利用者の満足、楽しみとなるように心掛けている。 運営推進委員会のメンバーと一緒に食し、アンケートにて声を聴き食に関する取り組みに活かしている。時には食材の買い物に利用者と共にいたり、皆で外食を楽しむなど社会との継続に努めている。	利用者が最も活躍できる場面は食事に関わる一連の作業である。本人の「出来ること、やりたいこと」を把握して支援するなど、一人ひとりが何等に係わることで喜びや楽しみ、生活の張り合いが増すと思われる。 尚、食事中はテレビを消し、皆で会話を楽しむ時間となることは期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事を刻んだり、ミキサー食にしたり、とろみをつけたり、好きな飲み物をお出ししたりして支援しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアを実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレで排泄できるように、支援しています。 尿意があいまいな方には、定期的に声をかけ、トイレ誘導しています。	トイレでの快適な排せつに努め、誘導の仕方、習慣の把握など、一人ひとりに合った支援を行っている。 また、夜間は負担軽減のためポータブルトイレを使用する利用者もいて、臨機応変に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	好きな飲み物をすすめたり、体操などを働きかけています。 また、下痢をしてしまった場合は、下剤の量を見直しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	ゆっくり入りたい方には、1時間入っていたり、早くも入りたい方には、早く入らせていると思います。	入浴時間を特に定めず、朝から夜まで利用は可能としている。2ユニットのタイプの異なるどちらの浴室でも入浴できることは、利用者の楽しみとなっている。 また、特殊浴室が設備されており、利用者の身体機能、体調に合わせた入浴方法も可能で、負担なく安心・安全な入浴が提供されている。入浴拒否や体調不良が続き、入浴できない利用者への対応は課題と考えている。	利用者の日々の変化や体調について関連付けを探るなどして、入浴を嫌がる引き金を排除する取り組みを進め、一人ひとりの利用者が楽しめる入浴となる事が期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、居室で休んでもらったりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬手帳を見て確認するなど、服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの役割として、お皿を拭いたり、洗濯物を畳んだりしてもらっているが、全員に対してできているとは言えない現状です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来る限り、出かけられるように努めているものの、地域の人々からの協力は得られていない現状です。 毎日、外出に連れて行って下さるご家族には、車椅子をお貸ししています。	皆で出掛ける、桜やバラ、藤の花見、外食、地区の敬老会、保育園の行事参加等、気分転換や楽しみの時間を支援している。 希望による買い物の同行などは行っているが、一人ひとりの要望、状況に合わせてのきめ細かい支援には至っていない現状で、不十分と感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に行きたい方をお店にお連れして、欲しいものを買う支援は行っているものの、所持する事の支援は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	身内に電話したいと訴えがあった時には電話を繋ぐなどして、関係の継続に努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度、掃除には気を使っているが、季節感を取り入れた環境にはなっていない現状です。	全体が和風の佇まいで落ち着く雰囲気醸し出している。 ホールは吹き抜けで圧迫感がなく、玄関、廊下、浴室などの共有スペースも使い勝手が良く、行動のしやすさを感じる。	広いスペースの畳の間の活用が不十分でもったいないと感じる。 利用者と一緒に使い道を考え有効に利用することで、利用者の活動の場面、やりたいことの場面が増えると思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂の席順などで工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族に馴染みの物を家から持って来てもらい、本人が安らぐ空間づくりをするように努めています。	居室の半スペースは畳、フラットな半スペースを板張りで全体的に和風にまとめ、これまでの生活環境を重視した造りとなっている。 家族の協力で使い慣れた物や品を置き、これまでの生活のギャップを少なくすることで、利用者の安心や落ち着きとなるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	大きな鏡があるので、職員から死角になっ ていても見えるように工夫しています。		